

NEWS RELEASE

2023年9月20日

消費動向に関するアンケート調査(2023年8月期)

調査結果の概要

- 現在の生活満足度の平均は、10点満点中岐阜県が5.3点、愛知県と全国が5.6点。1年前と比較した現在の暮らし向きは、岐阜県と全国で悪化、愛知県で横ばい。
- 収入DIは依然としてマイナスであるものの、1年前と比較していずれの地域でも改善。消費支出DIはいずれの地域でも上昇した。
- 費用項目別DIでは、「光熱・水道費」「食料費」「交通費（ガソリンなど）」「外食費」「旅行・レジャー費」等の上昇が目立った。物価上昇の影響のほか、消費マインドの改善がうかがえる。

調査要領

1. 調査方法 インターネットによるアンケート調査
2. 調査内容 生活満足度、暮らし向き、収入、消費支出
3. 調査期間 2023年8月8日～10日
4. 回答状況 有効回答1,260名 回答者の内訳は以下のとおり

回答者の内訳

地域別	(人, %)			
	男性	女性	計	構成比
岐阜県	210	210	420	33.3
愛知県	210	210	420	33.3
全国	210	210	420	33.3
合計	630	630	1,260	100.0

年齢別

	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
30歳未満	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
30歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
40歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
50歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
60歳以上	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

未婚・既婚の別

	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
未婚	81	85	166	39.5	88	62	150	35.7	96	75	171	40.7
既婚	129	125	254	60.5	122	148	270	64.3	114	135	249	59.3
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

職業別

	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
公務員	14	3	17	4.0	9	2	11	2.6	20	6	26	6.2
経営者・役員	5	0	5	1.2	2	0	2	0.5	3	0	3	0.7
会社員	126	41	167	39.8	135	50	185	44.0	115	74	189	45.0
自営業・自由業	23	7	30	7.1	16	6	22	5.2	17	3	20	4.8
専業主婦(主夫)	1	63	64	15.2	0	75	75	17.9	1	65	66	15.7
パート・アルバイト	14	72	86	20.5	13	60	73	17.4	13	39	52	12.4
学生	4	8	12	2.9	12	6	18	4.3	7	7	14	3.3
その他	1	4	5	1.2	1	5	6	1.4	5	5	10	2.4
無職	22	12	34	8.1	22	6	28	6.7	29	11	40	9.5
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

(注) 端数を四捨五入しているため、内訳の合計等が合致しない場合がある。

ご 照 会 先
 十六総合研究所 リサーチ部
 研究員 萩原 綾子
 岐阜県岐阜市神田町 7-12
 TEL 080-4333-0755

1. 生活満足度

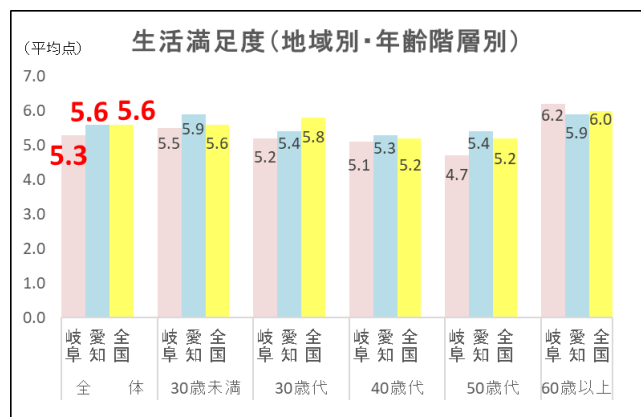
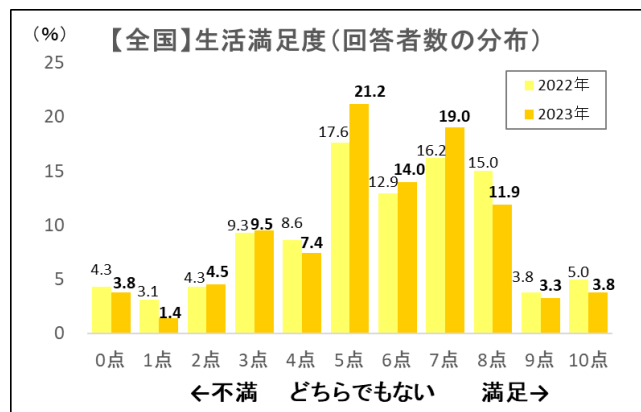
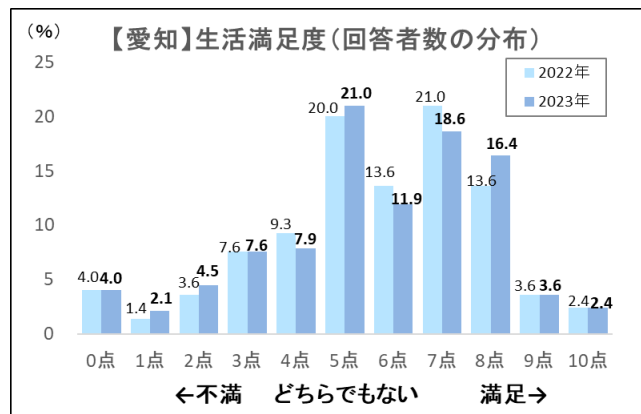
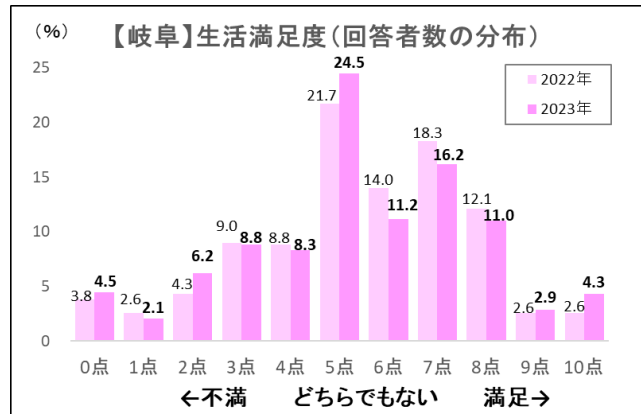
現在の生活にどの程度満足しているかについて、「とても満足」を10点、「どちらでもない」を5点、「とても不満」を0点とすると、何点くらいになると思うかを尋ねた。

回答の分布では、いずれの地域でも「5点」と回答した割合が最も高く、次いで「7点」と回答した割合が高かった（※1）。

生活満足度の平均点は、岐阜県が5.3点（前年調査比0.1点減）、愛知県と全国が5.6点（ともに同変化なし）であった。

「0点～4点（不満）」と回答した割合は、岐阜県が30.0%（前年調査比1.4ポイント増）、愛知県が26.2%（同0.2ポイント増）、全国が26.7%（同2.8ポイント減）、「6点～10点（満足）」と回答した割合は、それぞれ45.5%（同4.3ポイント減）、52.9%（同1.1ポイント減）、52.1%（同0.8ポイント減）であった。いずれの地域でも満足と回答した割合は前年調査を下回った。

地域別・年齢階層別の生活満足度の平均をみると、満足度が最も高い年代はいずれの地域でも60歳以上であった。なお、愛知県では30歳未満も60歳以上と並んで満足度が高かった。いずれの地域でも、30歳未満および30歳代は生活満足度が比較的高く、40歳代、50歳代になると低下し、60歳以上になると再び高くなる傾向がみられた。



2. 暮らし向き

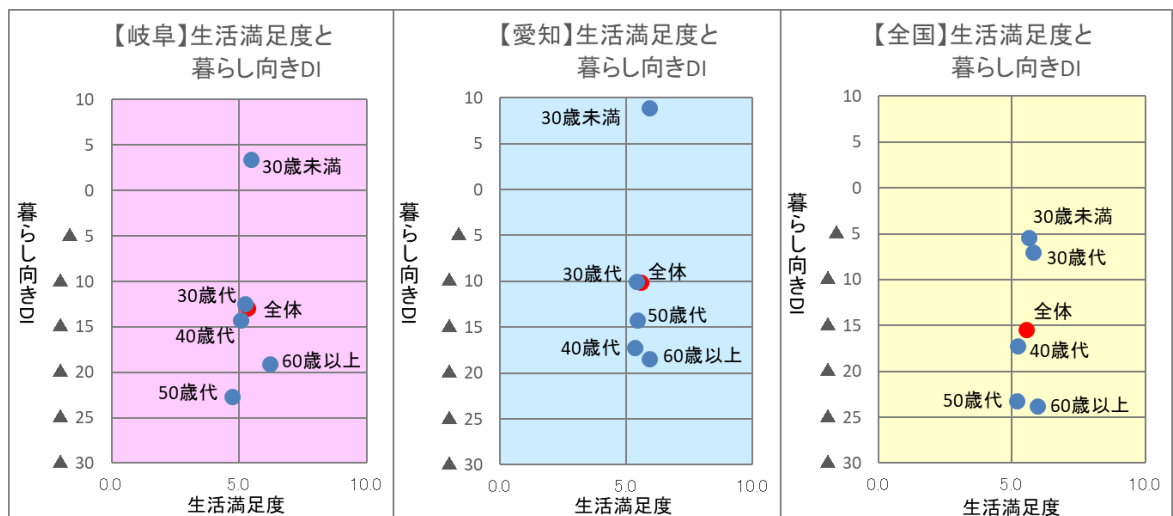
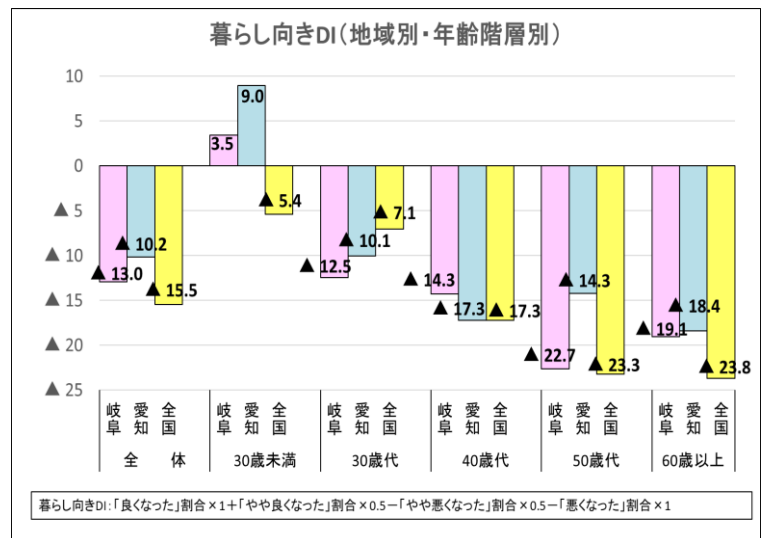
1年前と比較した現在の暮らし向きについて、「良くなった」を1点、「やや良くなった」を0.5点、「不変」を0点、「やや悪くなった」を▲0.5点、「悪くなった」を▲1点とウエイト付けし、各項目の回答者数割合を乗じてDIを算出した。

暮らし向きDIは、岐阜県が▲13.0（前年調査比2.2ポイント減）、愛知県が▲10.2（同変化なし）、全国が▲15.5（同4.2ポイント減）であった。

地域別・年齢階層別にみると、DIがプラスになったのは岐阜県と愛知県の30歳未満のみで、それ以外のすべての地域・年齢階層においてマイナスであった。最も高かったのは愛知県の30歳未満で9.0、最も低かったのは全国の60歳以上で▲23.8であった。いずれの地域でも年齢階層が上がると暮らし向きDIは低下する傾向がみられた。一般的に、自宅暮らしや一人暮らしが多い若い世代よりも、所帯を持つ中年世代の方が、家計における食料費や光熱費等の存在感は大きく、値上がりの影響も大きい。また、企業が若手の給与水準アップに力を入

れていることから若者の暮らし向きは比較的良好であると考えられる。一方で、高齢者は、年金額が給与収入ほどは上がらず物価高が進むほど生活が苦しくなる。年齢階層が上がると暮らし向きDIが低下する背景にはこのような状況があるとみられる。

生活満足度と暮らし向きDIの関係をみると、例年と同様に、いずれの地域も生活満足度は年代による差が小さく中位付近に集中しているが、暮らし向きDIは年代によってばらつきがある。



3. 収入と消費支出

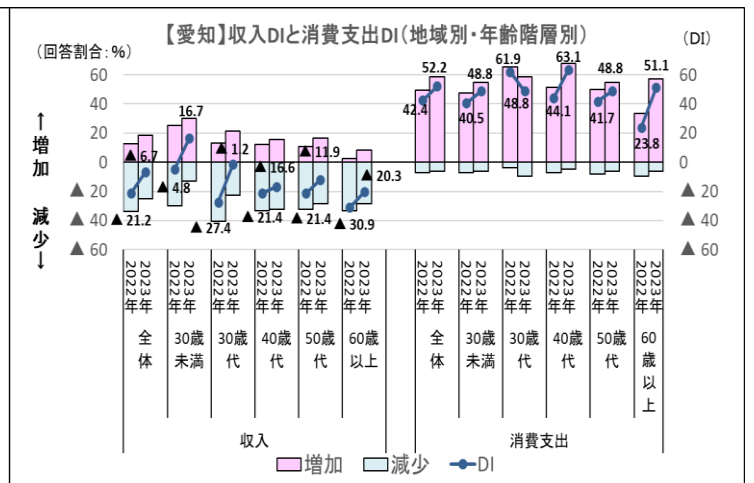
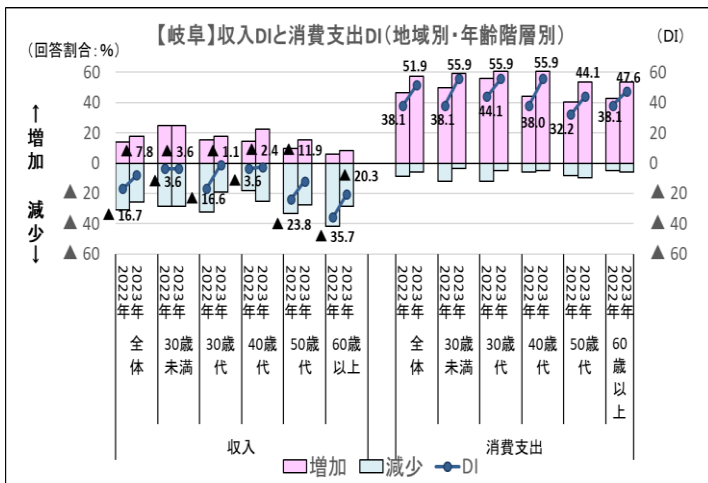
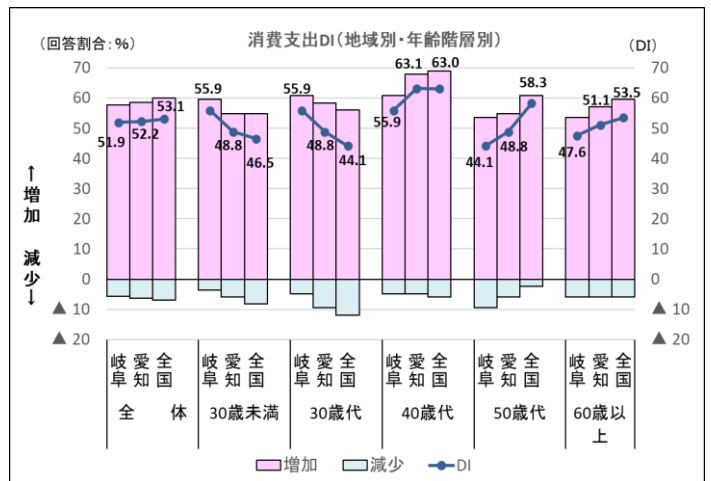
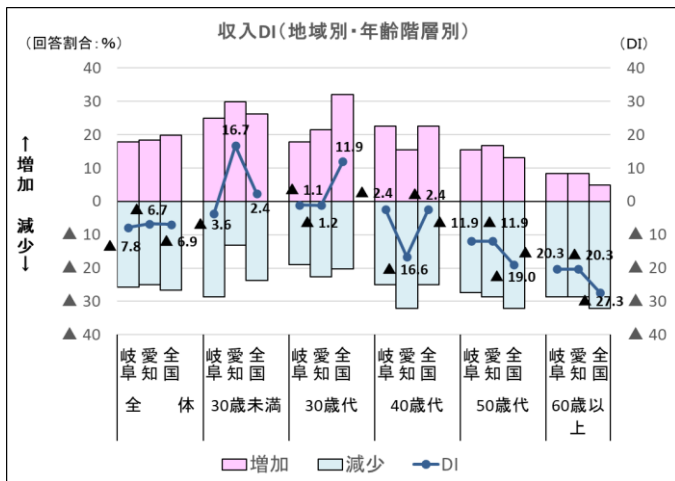
収入 DI (※2) は、全体では岐阜県が▲7.8 (前年調査比 8.9 増)、愛知県が▲6.7 (同 14.5 増)、全国が▲6.9 (同 8.5 増) と依然としてマイナスではあるものの、いずれの地域でも改善した。

地域別・年齢階層別の収入 DI をみると、最も大きかったのは岐阜県と全国が 30 歳代、愛知県が 30 歳未満であった。最も小さかったのはいずれの地域でも 60 歳以上であった。また、前年調査と比較すると、岐阜県の 30 歳未満は横ばいであったが、それ以外のすべての地域・年齢階層で収入 DI が改

善した。

消費支出 DI は、全体では岐阜県が 51.9 (前年調査比 13.8 増)、愛知県が 52.2 (同 9.8 増)、全国が 53.1 (同 15.7 増) といずれの地域でも上昇した。

地域別・年齢階層別に前年調査と比較すると、消費支出 DI は、愛知県と全国の 30 歳代を除くすべての地域・年齢階層において上昇した。特に全国の 60 歳以上で 34.4 増、愛知県の 60 歳以上で 27.3 増と大幅に増加した。



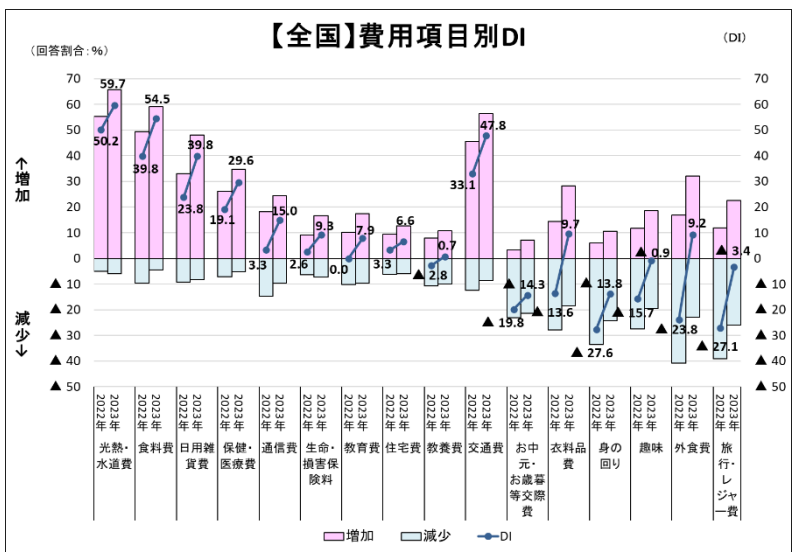
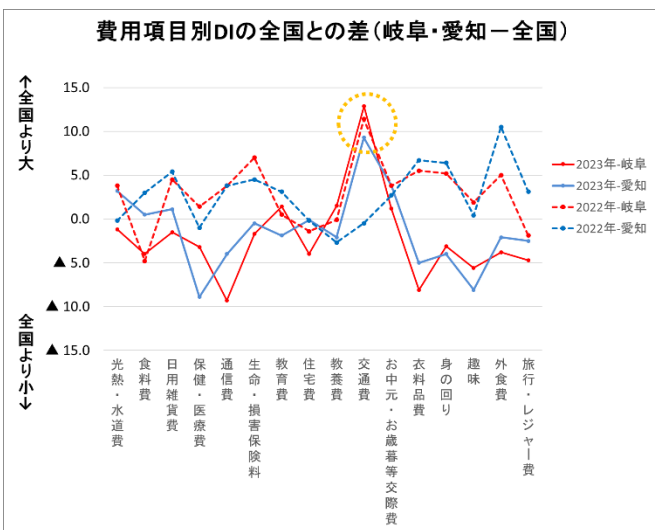
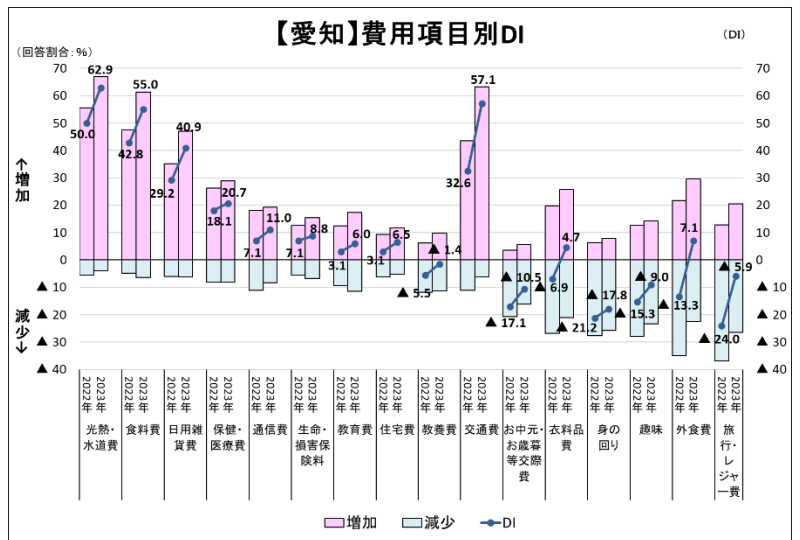
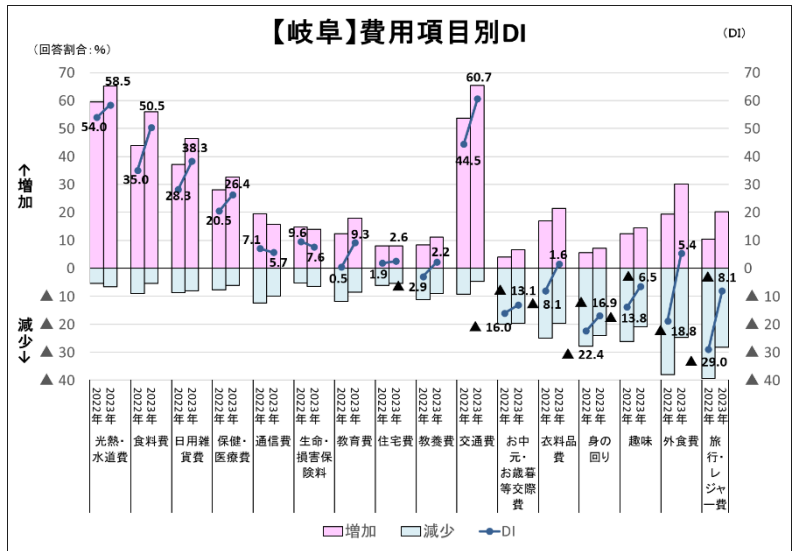
※2: 収入 DI、消費支出 DI および費用項目別 DI は、「増加」「不変」「減少」の選択肢のうち、「増加」と回答した割合から「減少」と回答した割合を差し引いて算出した。

4. 費用項目別DI

費用項目別の支出について、1年前と比べてどのように変化したかを尋ね、DIを算出した。

いずれの地域でもほとんどの費用項目でDIが上昇した。中でも「外食費」「旅行・レジャー費」等の上昇が目立った。これは、今年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5類へと変更されたこととともなう外出機会の増加等によるものと推測される。また、昨年から継続している食料品の値上げや、ガソリン価格高騰の影響などにより「食料費」「交通費」も上昇した。

費用項目別DIについて、全国と岐阜県・愛知県との差をみると、最も差が大きかったのは岐阜県、愛知県ともに「交通費」で、全国を大きく上回った。両県は、自家用乗用車の世帯当たり普及台数が全国平均よりも多いことから、ガソリン価格高騰の影響が大きかったと考えられる。



5. 終わりに

収入DIは、依然としてマイナスではあるものの、前年調査と比較していずれの地域でも改善がみられた。最近の賃上げの動きが、働く人の実感として現れてきたと言えるだろう。全体ではいずれの地域でも「収入が増加した」と回答した割合が前年よりも上昇した。

一方で、消費支出DIは大幅に上昇している。費用項目別DIをみると、値上げが続いている食料品や日用品への支出のほか、光熱・水道費やガソリン代を含む交通費など資源価格高騰の影響を受けている項目でDIの上昇が目立った。また、衣料品や趣味、外食、旅行・レジャーといった娯楽・外出型支出項目のDIも上昇している。消費支出DI上昇の背景には、物価高によるやむを得ない支出の増加と、コロナ禍からの回復や

賃金上昇などにより消費マインドが改善したことともなう支出の増加とが併存しているようだ。

賃上げの動きは続いているものの、物価上昇の影響を考慮した実質賃金はマイナスが続いている。本調査では、生活満足度について、「満足」と回答した割合がいずれの地域でも前年より低下した。賃金上昇が物価上昇に追いついていないことも、生活満足度が低下した要因の一つではないだろうか。物価高への対策として、ガソリン補助金の拡充や電気代・ガス代の負担軽減策などが実施されているが、これらの支援策とあわせて物価高に負けない賃上げを継続し、賃金と物価の好循環につなげることが求められる。

(研究員 萩原 綾子)